

看護学科

実施日時 : 2019年4月4日(木)

実施場所 : 6402講義室

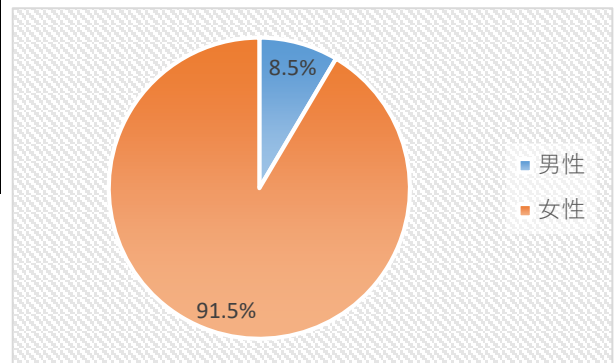
対象人数 : 94名

回収数(率) : 94名(100.0%)

【集計結果】

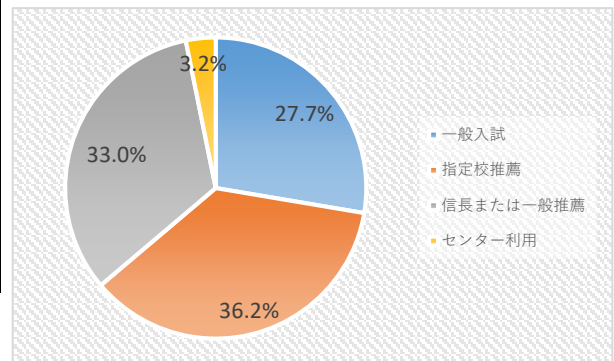
(1) 性別

男性	8	8.5%
女性	86	91.5%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%



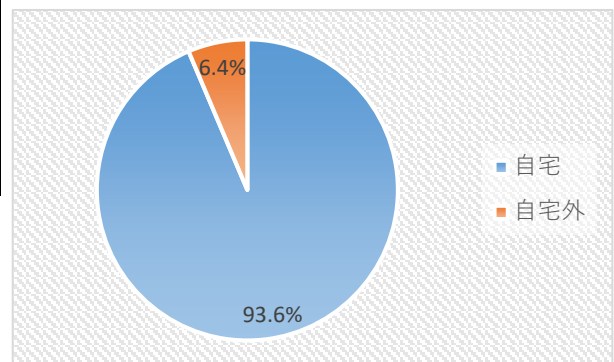
(2) 入試区分

一般入試	26	27.7%
指定校推薦	34	36.2%
信長または一般推薦	31	33.0%
センター利用	3	3.2%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%



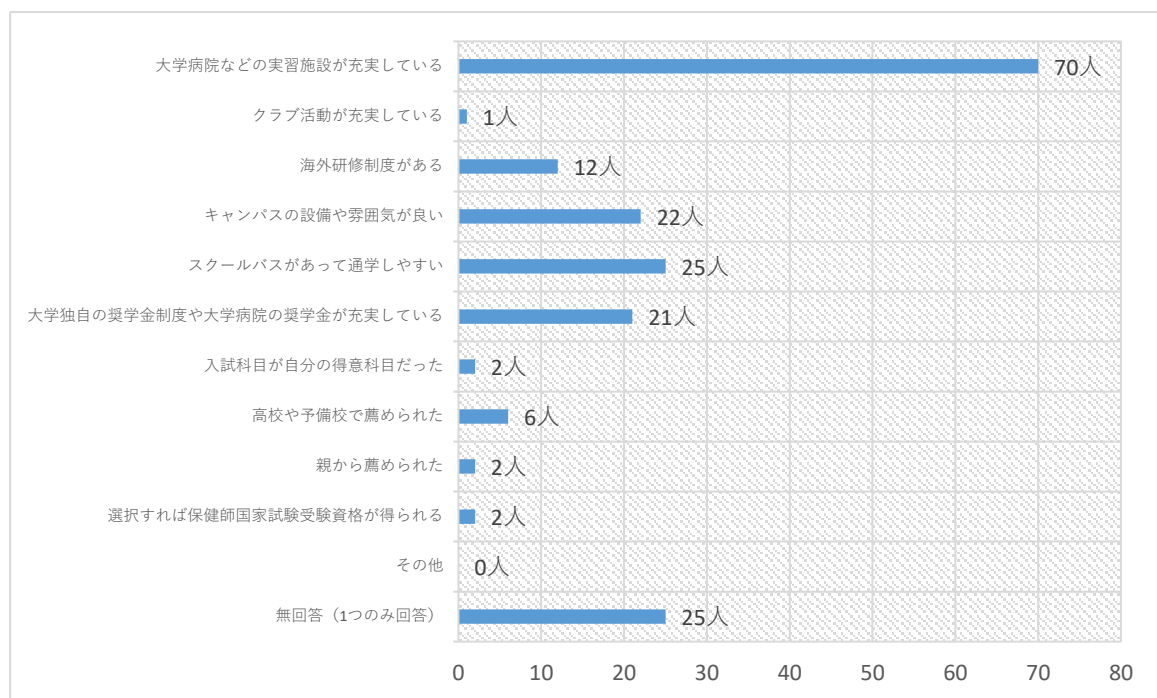
(3) 住居

自宅	88	93.6%
自宅外(保護者と別居)	6	6.4%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%



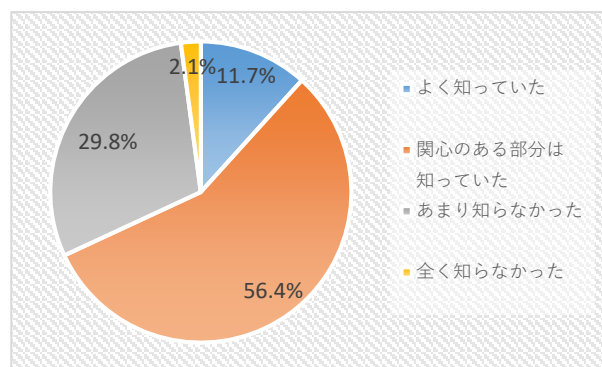
(4) 朝日大学への入学を決めた理由は何ですか。(2つまで)

大学病院などの実習施設が充実している	70	74.5%
クラブ活動が充実している	1	1.1%
海外研修制度がある	12	12.8%
キャンパスの設備や雰囲気が良い	22	23.4%
スクールバスがあって通学しやすい	25	26.6%
大学独自の奨学金制度や大学病院の奨学金が充実している	21	22.3%
入試科目が自分の得意科目だった	2	2.1%
高校や予備校で薦められた	6	6.4%
親から薦められた	2	2.1%
選択すれば保健師国家試験受験資格が得られる	2	2.1%
その他	0	0.0%
無回答 (1つのみ回答)	25	26.6%
計	188	200.0%



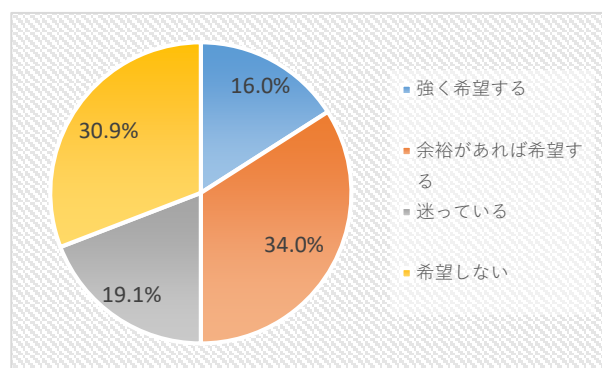
(5) 看護学科の教育内容について入学前から知っていましたか。

よく知っていた	11	11.7%
関心のある部分は知っていた	53	56.4%
あまり知らなかった	28	29.8%
全く知らなかった	2	2.1%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%



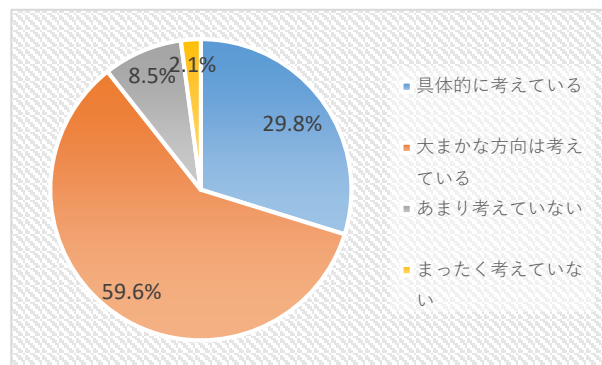
(6) 保健師課程の選択は希望していますか

強く希望する	15	16.0%
余裕があれば希望する	32	34.0%
迷っている	18	19.1%
希望しない	29	30.9%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%



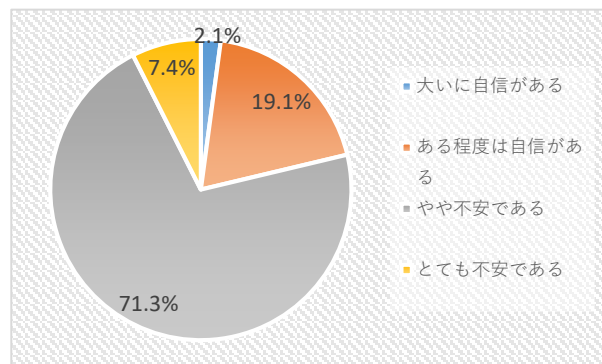
(7) 卒業後の希望進路（就職、助産師学校等への進学）は考えていますか。

具体的に考えている	28	29.8%
大まかな方向は考えている	56	59.6%
あまり考えていない	8	8.5%
まったく考えていない	2	2.1%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%



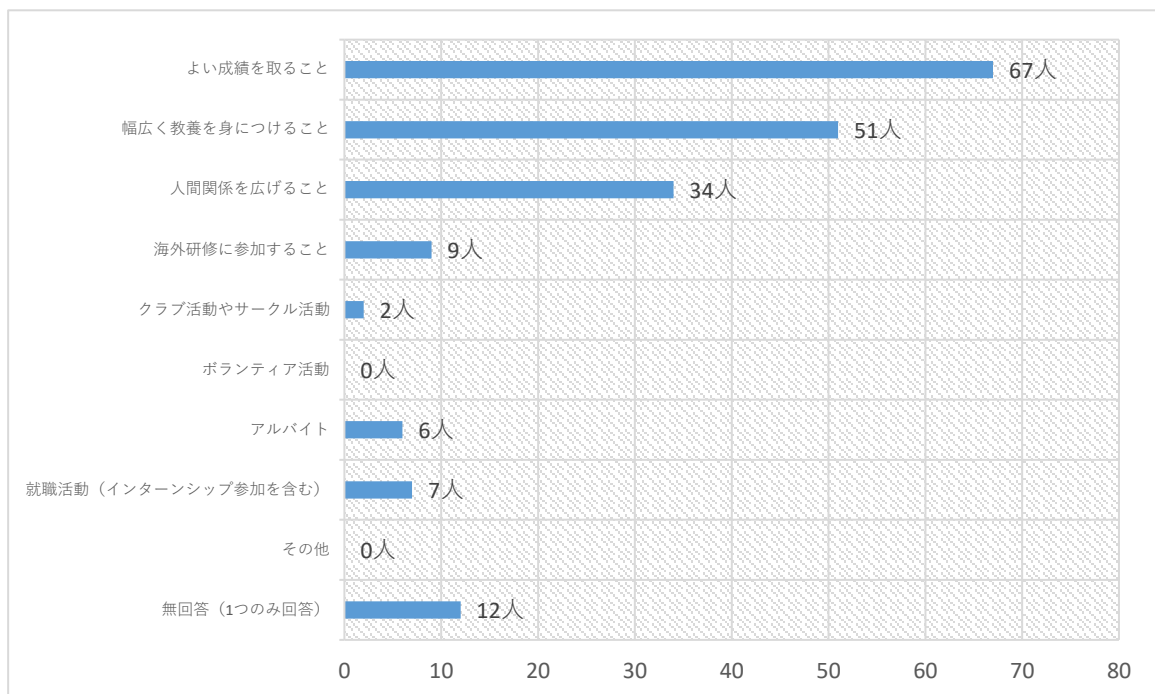
(8) 看護学科での学修について自信はありますか。

大いに自信がある	2	2.1%
ある程度は自信がある	18	19.1%
やや不安である	67	71.3%
とても不安である	7	7.4%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%



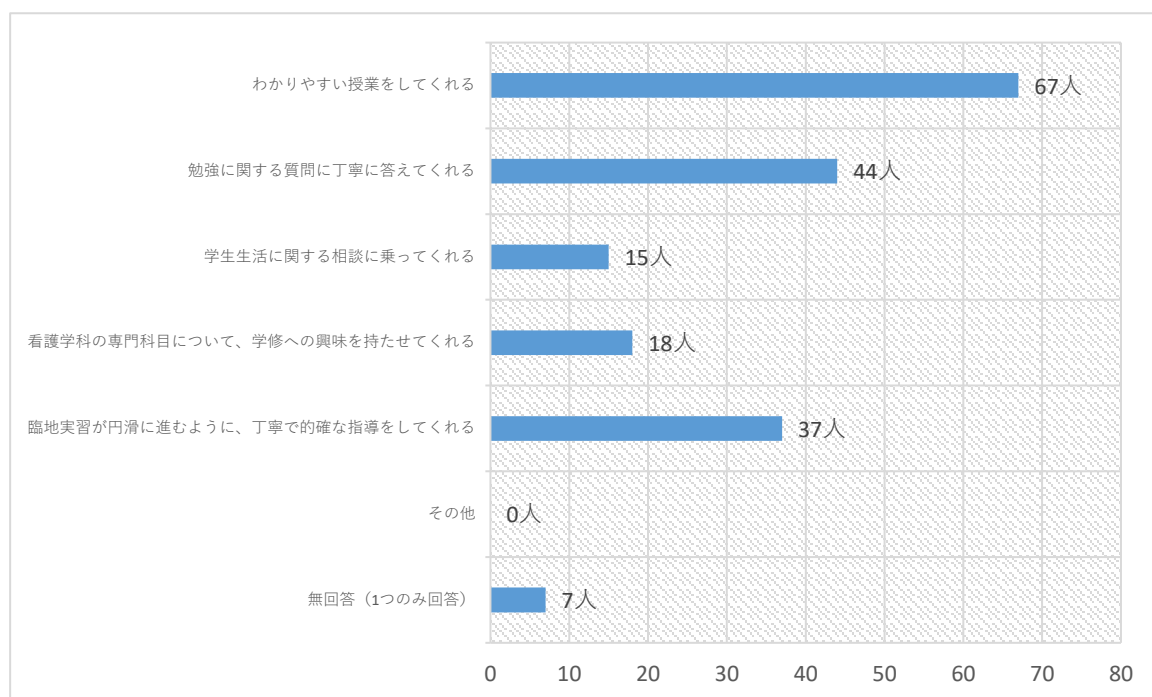
(9) 大学生活で特に力を入れていきたいものは何ですか。(2つまで)

よい成績を取ること	67	71.3%
幅広く教養を身につけること	51	54.3%
人間関係を広げること	34	36.2%
海外研修に参加すること	9	9.6%
クラブ活動やサークル活動	2	2.1%
ボランティア活動	0	0.0%
アルバイト	6	6.4%
就職活動（インターンシップ参加を含む）	7	7.4%
その他	0	0.0%
無回答（1つのみ回答）	12	12.8%
計	188	200.0%



(10) 教員に特に期待することは何ですか。(2つまで)

わかりやすい授業をしてくれる	67	71.3%
勉強に関する質問に丁寧に答えてくれる	44	46.8%
学生生活に関する相談に乗ってくれる	15	16.0%
看護学科の専門科目について、学修への興味を持たせてくれる	18	19.1%
臨地実習が円滑に進むように、丁寧で的確な指導をしてくれる	37	39.4%
その他	0	0.0%
無回答 (1つのみ回答)	7	7.4%
計	188	200.0%



(11) 以上の問いのほかに、学生生活について感じていることや要望があれば、自由記述で教えてください。できれば理由も教えてください。

なし

【まとめ】

● 総括

〈男女比〉については、2018年度の男子学生17%に比べ、今年度入学生では男性の割合が低い。〈入試区分〉は昨年度とほぼ同様である。看護学科の学生の〈住居〉は例年大半が自宅であるが、今年度は昨年よりさらに自宅通学生の割合が高い。日常的な学修に加え、国家試験に向け教育懇談会などの機会を通じて、保護者に対する学生への支援を依頼する必要がある。

〈朝日大学への入学を決めた理由〉については、昨年と大きく違うのは「スクールバスがあって通学しやすい」「大学独自の奨学金や大学病院の奨学金が充実している」の割合が高いことである。看護学科の入学生は圧倒的に自宅通学生が多いことから、通学のしやすさが重視されていることがうかがえる。また、大学病院も含め奨学金があることも大学選択のポイントとなっている。岐阜県内には2019年4月現在、看護学科を有する大学が7大学となった。昨年同様に高い割合を示した「大学病院などの実習施設が充実している」ことと通学のしやすさ、大学および大学病院の奨学金があることが、本学に入学を決めた理由として大きいと考えられる。入学生は〈教員に期待すること〉として、「臨地実習における丁寧で的確な指導」を期待しており、実習病院と連携を取り学生にとってよりよい実習環境を整えることが必要である。

〈看護学科の教育内容について知っていましたか〉については、昨年とほぼ同じであった。しかし、全く知らなかった学生は昨年0に対し今年度は2名であった。多くの学生が教育内容をよく理解して入学しているとは言えない状況は昨年と同様である。〈大学生活で特に力を入れたいこと〉に対して、良い成績を取りたい、幅広い教養を身に付けたいと答えていることから学修に対する意欲は窺える。その反面、〈看護学科での学習についての自信〉では、全体の8割の学生が看護学科での学習に不安を抱えている状況がある。〈教員に期待すること〉として、「わかりやすい授業」が最も多く、次いで「勉強に関する質問への丁寧な答え」「臨地実習における丁寧で的確な指導」の順となっている。各教員がわかりやすい授業の工夫をするとともに、臨地実習では学生の不安を理解し丁寧な指導を行う必要がある。入学時は〈大学生活で特に力を入れたいこと〉でアルバイトと答えた学生は94名中6名と少ないが、卒業時のアンケートでは多くの学生がアルバイトに力を入れたと回答している。本学科はアドバイザー制度を有しているため、学生生活や修学について、アドバイザーを中心とした支援の強化が求められる。